

桃太郎ごっこ

2月3日の節分の日、朝から玄関や保育室の前に飾られている“やいかがし”を見たり、豆まきに使う福豆の匂いを嗅いだりして興味をもっていました。

その後、みんなで園庭に出て、自分の中から追い出したい鬼を目掛けて「鬼は外〜！」豆まきを楽しみました。

豆まきの再現遊び

節分の豆まき

鬼の折り紙

桃太郎ごっこ

鬼のお家は…鬼ヶ島！

「桃太郎だから鬼に負けない強い剣作りたい！」

「犬は噛みつくからキバをつくりたいな」

「動物が住んでいる森を作ろう！」

「キジは鳥だから高いところにいるんだよ！」

次の日、一人の子が鬼のお面をかぶって鬼遊びが始まりました。「鬼がやってきたぞ〜！」それを見た別の子が、すぐに「豆をまいてやっつけよう！」と、豆の色に似た画用紙の色を丸めて豆を作り、豆まきの再現遊びが始まりました。

何度も鬼はやっつけられ、どこにいても豆を投げられてしまいます。すると、「豆を投げられない鬼の家を作ろう！」と鬼ヶ島を作り始めました。

桃太郎ごっこをする中で、「こども会みたい！お家の人に見せようよ！」とこどもたちから意見があがった時には、担任としてとても嬉しくなりました。

なぜなら、生活の中で経験した行事の楽しさを遊びの中に取り入れたり、必要なものを自分で考えて作ったりして、自分たちで作り上げた遊びを楽しむ中で、自信をもって取り組んでいたから見せたくなったのだろうな。と思ったからです。

12月のこども会よりもさらに自信をもって取り組むこどもたちの姿に成長を感じています。

鬼ヶ島ができると、「なんか桃太郎のお話みたいだね」と、以前学級で読んだ物語の話になりました。すると、「僕キジになりたい！」「剣で戦うからもたろうにしようかな」「ネコは引掻くからサル代わりにしてもいい？」と、それぞれ自分のなりたいものになりきって桃太郎ごっこになりました。